

14 瓜生外吉海軍大将の胸像



南町にある山角天神社の社に上がる階段脇に胸像が建っています。胸像の主・瓜生外吉は日露戦争の日本海海戦に参戦した海軍軍人です。神社近くに別邸を構えていました。妻の繁子は岩倉使節団に同行した留学生の一人で、財界で活躍し晩年は小田原で茶人として名を残した益田孝（鈍翁）の妹です。瓜生は山角町（現 南町）の人たちに慕われていました。胸像は東京の瓜生邸から運んできたもので、死去1年後の1939年、除幕式が行われました。



17 松永記念館の本土決戦陣地跡



松永記念館の老舗荘の入口付近の裏の崖に二つの扉がついた入口があり、それぞれの内部はかまぼこ型の広い空間になっています。この横穴は、本土決戦のために作られた地下壕と考えられます。足柄平野には1945年4月頃より第84師団が本土決戦のために駐留しますが、最初に行ったことはこのような地下式陣地の構築でした。近くの大窪国民学校には、野砲兵第84連隊の一部が駐留しており、その関連施設とも考えられます。＊安全上、陣地跡の見学はできません。



15 大久保神社の砲弾



大久保神社には日露戦争の「戦利兵器」の砲弾があります。台座には陸軍大臣寺内正毅による、1907年3月付の「戦利兵器奉納ノ記」が刻まれ、日露戦争の勝利の記念物として、戦利品の砲弾を神社に奉納することにより、国の隆盛を祈ると書かれています。また、近くの県立小田原高校には、当時の校長が教育上の資料として、日露戦争に参加した小田原出身の海軍軍人関重忠少将の協力により譲り受けた日清戦争の戦利品である清国の軍艦の「鎮遠の鐘」があります。



16 小田原市慰霊塔



1957年10月29日、小峯公園（現 城山公園）で「小田原市戦死者慰霊塔 竣工式並びに合同慰霊祭」が挙行されました。完成した塔の高さは12m、題字の揮毫は元市長鈴木英雄、碑文は当時の市長鈴木十郎の撰書です。明治以来、日本の戦争で亡くなった市全体の戦没者2858名の慰霊のために建立されました。現在も市遺族会により、原則毎月29日に、清掃奉仕と市仏教会並びに川東仏教会僧侶による読経供養が行われています。



19 根府川駅舎の機銃掃射弾痕と句碑



1945年7月末から小田原地方は連日、米軍小型機による空襲を受けました。低空で飛び交う米軍機からの機銃掃射は人々を恐怖のどん底に落としました。JR根府川駅の上りホーム（階段下附近）の屋根の柱に機銃掃射の弾痕を確認することができます。また、近くの根府川公民館には高射砲陣地が作られていました。その高射砲部隊の元兵士が1988年、その地に陣地があったことを詠んだ句碑を建てました。



伝えておきたい小田原の

戦争と平和

小田原のまちにも、かつて、いまわしい戦争がありました。直接戦争に関わらなくても、何らかの形で戦争を支える、いわゆる「銃後」としての役割を負わされ、戦争末期には、本土決戦部隊が駐留し、上空を米軍戦闘機が飛び交い、敗戦の日（1945年8月15日）にはB29による空襲を受けました。戦争が終わって70年余り、戦争と平和に向き合いながら、市民の誰もがこのまちと暮らしを大切に守っていきたいと考えています。市内に残る数々の「戦争を伝えるもの」は、そのための大切な資料になるはずです。

小田原市平和都市宣言

わが国は 世界で唯一の核被爆国であり国民は 日本国憲法にもとづく恒久平和の実現をめざし世界から核兵器を廃絶することを共通の願いとしていますわたくしたちのまち小田原は過去に戦災を被るという悲しい歴史を持っていますそして多くの歴史的文化遺産を守り続けているわたくしたちにはこうした惨禍をくり返すことのないよう平和を守りきらめく城下町を次の世代へ引き継いでいく責務があります小田原市は 美しい地球を大切にし 輝かしい人類の未来を信じ世界平和を実現するためにここに永久に平和都市であることを宣言します



8月15日の小田原空襲

1945年8月15日、まさに敗戦当日、深夜1時～2時頃、小田原は米軍の戦略爆撃機B 29一機による焼夷弾空襲を受けました。空襲の直前には、埼玉県熊谷市と群馬県伊勢崎市が空襲を受けており、その二都市を攻撃した編隊のうちの一機が、マリアナ諸島の米軍基地へ帰還する途中に小田原を空襲したものと考えられます。米軍のその日の作戦任務報告書には小田原空襲の記載は一切なく、計画されたものではありませんでした。

しかしながら、米軍の日本都市空襲の候補地が記された「180都市の表」の96番目には小田原が挙げられています。米軍は都市空襲を実行する場合には、投下目標地点を記した航空写真地図「石版集成図（リト・モザイク地図）」を作成しており、小田原についても1945年3月に上空から航空写真を撮影し、同年7月には「石版集成図」が完成しています。したがって、いつでも小田原への空襲が可能状態であり、横浜市や平塚市と同じように壊滅的な被害を受けた可能性があります。

8月15日の小田原空襲で被災し炎上した地区は、現在の浜町一・三丁目、本町二・三丁目にまたがり、国道1号をはさんで国際通りの両側にあたります（被災地図参照）。消失した家屋は約400軒、死者は「戦時下の小田原地方を記録する会」の調査によれば12名です。

被災した古清水旅館（当時）を撮影した2枚の写真が残っています。そのうちの1枚（写真参照）には、建物がすっかり焼け落ちた古清水旅館の後方に、焼き尽くされた小田原の町並みが映っています。

DVD「戦争のない平和な社会を次の世代へ～小田原にも空襲があった～」小田原市では、小田原空襲の体験談の記録映像をDVD（17分）にまとめました。DVDは小田原市総務課で貸出しをしています。市ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。

発行：小田原市総務課
小田原市荻窪300番地 TEL 0465-33-1291
協力：戦時下の小田原地方を記録する会
平成29年(2017)3月 発行

11 小田原空襲説明板



本町の高齢者専用賃貸マンション「プラージュ古清水」の入口に設置されています。敗戦の日（1945年8月15日）の小田原空襲についての説明板です。2007年に同地にあった古清水旅館館主の清水伊十長さんと、戦時下の小田原地方を記録する会によって旅館の敷地に建てられました。その後同館の廃業に伴って移設したものです。マンションの2階には古清水旅館の空襲被災資料等を展示した私設資料館があります。

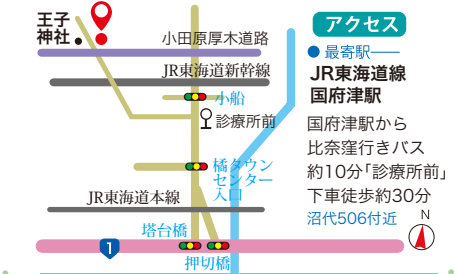


DVD「戦争のない平和な社会を次の世代へ～小田原にも空襲があった～」小田原市では、小田原空襲の体験談の記録映像をDVD（17分）にまとめました。DVDは小田原市総務課で貸出しをしています。市ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。

① 上原重雄陸軍中佐の慰霊碑



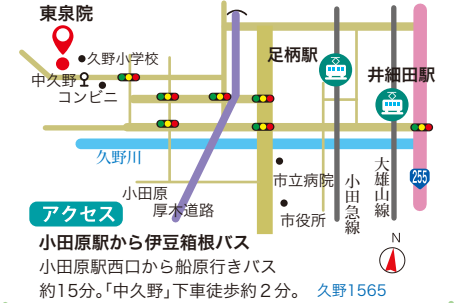
沼代の王子神社近くの道路沿いに戦闘機のプロペラを立てた慰霊碑が建っています。以前は近くの小高い丘のミカン畑の中にあったものを2010年に移してきたものです。上原重雄陸軍中佐は、1945年2月17日、沼代上空で米軍戦闘機との空中戦により撃墜されて戦死しました。上原中佐は当時愛川町にあった第22航空戦隊の隊長で28歳でした。沼代の人たちは遺体を収容し通夜をして弔い、1953年に墜落場所に慰霊碑を建てました。



⑦ 間中喜雄の平和碑



間中喜雄さんは本町の総合病院・間中病院の元院長です。小田原に生まれ、1935年に京都大学医学部を卒業し、医師となりました。40年に召集され、すぐに復員。41年（30歳）に軍医として再召集され、敗戦を沖縄・宮古島で迎えました。宮古島では飢餓状態を体験し、敗戦後の10か月間、沖縄の米軍捕虜収容所で過ごしました。1989年、戦争への怒りと戦争の愚かさを記した平和碑を久野の東泉院に建てました。



② 菅原神社の忠魂碑



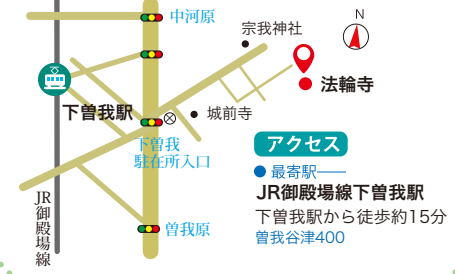
国府津の菅原神社にあります。この碑は、1907年に当時の国府津村有志により建立されました。文字は篆書で、揮毫者は日露戦争第3軍司令官乃木希典です。忠魂とは天皇に忠誠を尽くして戦死したということです。このような石碑を戦争碑と呼び、市内各所で見ることができます。これまで戦没者にゆかりのある方々によって維持されてきたことから、一般にはあまり知られていませんが、地域と戦争との関わりを伝える貴重な資料です。



③ 法輪寺の「祈の森」の碑



寺の山門近くにあり、裏面には「鳥取歩兵二百聯隊本部有志、横浜市山元小学校疎開学童有志」と記されています。この碑は本土決戦のために1945年4月頃より、小田原市東部に駐留した歩兵第200連隊の元兵士が戦後建てたものです。連隊本部は国府津の宝金剛寺に置かれ、この兵士たちは曾我の山を上った浅間山で陣地構築をしていました。その途中にある法輪寺には学童疎開の児童がいて、元兵士たちとの交流がありました。



④ ユアサの空襲慰霊碑



成田にあるGSユアサ小田原事業所の中に慰霊碑があります。「慰霊の碑」の文字が刻まれた石が置かれ、そばに空襲があったことを伝える石碑と、殉職者名が記された石碑があります。以前は、扇町の湯浅蓄電池小田原工場にあったものを、工場移転に際し移したものです。同工場はバッテリーを製造していた軍需工場でした。1945年8月13日に米軍小型機による空襲を受け、若い女性工員ら13名が犠牲となりました。

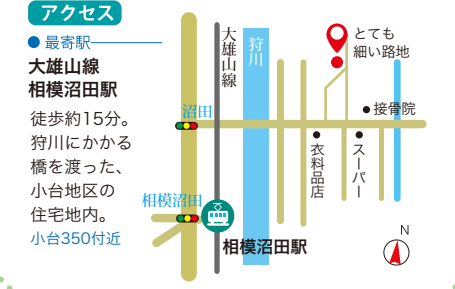
＊工場内にあるため見学には許可が必要です。



⑤ 立川航空兵殉職記念碑



小台地区の住宅地にひっそりと建っています。1932年7月23日、日本陸軍機一機がこの地に墜落し、搭乗員2名のうち、1名は落下傘で脱出し、もう1名（岩橋之夫軍曹）が亡くなりました。墜落した陸軍機は、東京の立川にあった陸軍飛行第5連隊のもので飛行訓練中でした。翌年、小台地区（当時は足柄村）の住民によって殉職記念碑が建てられました。



⑥ 多古の身代り地蔵尊



1945年8月13日、扇町にあった湯浅蓄電池小田原工場が米軍小型機による空襲を受けたとき、工場近くの伊豆箱根鉄道大雄山線の切通し付近に爆弾が落とされました。線路沿いにあった防空壕の天井がその衝撃で落ち、中にいた多古地区の13名が生き埋めとなり亡くなりました。亡くなった方々の冥福を祈って、1969年に防空壕があった場所（市文化財課整理室の裏）に、近くのみそ製造の加藤兵太郎商店五代目の妻の加藤文子さんによって「身代り地蔵尊」が建てられました。



⑩ 新玉小空襲の爆弾投下跡



敗戦2日前の1945年8月13日、午前8時～9時頃、新玉国民学校（現新玉小）は米軍小型機による空襲を受け、教職員3名が亡くなりました。投下された4発の爆弾のうち、2発は学校内に、1発は近くの田んぼに、もう1発は隣接する寺院・蓮上院にある中世土塁の上に落ちました。土塁は後北条氏が築いたもので国指定史跡となっています。そのため、爆弾によって生じた穴を埋めることなく、その痕跡を現在に留めることになりました。

＊隣接する道路から金網越しに見ることができます。



⑫ 三の丸小の青い目の人形



1927年に約1万2000体もの青い目の人形が親善使節としてアメリカの子どもたちから日本の子どもたちへ贈られてきました。各地では、贈られてきた青い目の人形の歓迎式典が盛大に行われ、多くの小学校で飾られました。しかしながら1941年にアメリカとの戦争が始まると人形は敵視され、多くが処分されました。幸いにも小田原市立三の丸小学校には、そのうちの一体「メイ・サン・マーチス」が処分されることなく保存されています。



⑬ 郷土文化館の戦争資料



小田原城址公園の一角にある小田原市郷土文化館の展示室には、戦時下の暮らしのを知ることができる資料を展示しているコーナーがあります。中でもひととき目を引くのが、金属製の不足から竹や籐で作られた「竹かぶと」です。民間人も空襲への対応としてかぶとを着用することが指導されました。郷土文化館は年末年始を除いて開館（9～17時・臨時休館あり）しており、入館無料です。

